

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日:R7年3月7日

事業所名: 児童発達支援 多機能型放課後等デイサービスみらいスイッチ神埼第二

対象人数(保護者)16人 回答者数 7人 回収 43.8%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7		
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1	
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7		
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7		
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7		
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	7		
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1	
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7		
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7		
	⑪	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	3	1
保護者 への 説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7		
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7		
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	2	3
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7		
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	2	
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		4	3
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7		
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7		
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	7		
非常時 等の 対応	㉒	個人情報 の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7		
	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	2	1
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	2	1
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	1	
満足 度	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7		
	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	7		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	6	1	
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	6	1	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
みらいスイッチ神埼第二(児童発達支援)		R7年 3月 10日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動内容や利用者の年齢に合わせてグループに分け、少人数でおこなうことでより広いスペースが確保できている。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		安全に子どもを見守ることができる人員配置している。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	手すりや滑り止め、段差のないトイレなど配慮している。	玄関のスロープの設置が課題	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		掃除や消毒を入念におこなっている。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		目的に合わせた部屋の使い方ができている。カームダウンスペースとして静養室を準備している。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1		目標設定への参画を更に意識し、継続的な改善につなげる。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		年に一回、評価表を確認し業務改善に向けた話し合いを実施。	今回もアンケート結果を基に保護者の意向を把握し、業務改善につなげていく。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議、面談により把握に努めている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		現時点では未実施。専門的かつ客観的な立場からの評価は必要と考えている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間計画に基づいて毎月、研修をおこなっている。	外部の専門的な研修への参加も積極的におこなっていく。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		HUG、SNSを活用している。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		子ども、保護者に対してアセスメントを行い職員からの聞き取りも併せて計画に反映させている。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		職員にも聞き取りを行い、一人ひとりのニーズに合わせた計画になるよう検討を重ねている。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	2	ミーティングで共有し、常に見ることができるようにしている。	職員全員への周知を徹底する。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	4	医療機関においてウェクスラー式や田中ビネーをおこなっているため、資料として提出してもらっている。アセスメントの精度をあげるため、ツールの使用は重要と考えている。	アセスメントの精度をより上げるためツールを使用し、客観的数値化を行うことも有効な手段と考えている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		5領域の視点を踏まえたアセスメントを行ったうえで支援目標に向けた支援内容を設定している。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		毎月、リーダーを中心にチームで立案している。またプログラムの担当(主・副)を決めている。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		季節に応じたプログラムやレベルを変えておこなうなど工夫している。運動プログラム、製作プログラムにバランスよく参加できるよう配慮している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		利用者の状況を見ながら適宜組みなおしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日ミーティングで確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		振り返りのミーティングを必ずおこない、日報として記録し、全員共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	2	連絡帳、評価シートに記録し、必要に応じてビデオ検証している。	専門的な分析シートの導入も検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		児発管を中心にモニタリング、見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		担当者会議で情報共有し、その後、全スタッフに共有している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	主治医参加の支援会議も実施されているため、参加しアドバイスを受けている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		関係構築に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		相談支援専門員の方を通して学校との調整を依頼している。	入学前にできるだけ行いたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	5		地域の児童発達支援センターの研修の案内があれば職員の参加を促す。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	イベント参加時や公共の施設に出かけた際に一緒に活動をすることがある。		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳だけでなく、送迎時にその日の様子、課題についての報告をおこなっている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		ペアトレ実施機関の紹介やペアトレ養成講座の受講をすすめている。	
ロ	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		見学時、契約時と数回おこなっている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		計画変更時のアセスメントだけではなく、日頃より対面で話す機会を設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		児発管が必ず対面で行い、同意を得よう心掛けている。HUGと紙面の両方で確認していただけのようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		悩み等、相談していただけるよう普段より保護者とのコミュニケーションを重視している。相談を受けた場合、解決策の提案やよりよい助言ができるようスタッフ間で話し合っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8		今後、開催を望む声があれば検討していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1	疑問質問に対してスタッフ間で共有、検討し迅速に対応することを心掛けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		月1回、お便り、イベント表を発行し郵送している。併せてSNSでの発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		SNSの投稿は特に細心の注意を払っている。書類は施錠し保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		直接、電話、HUGなど対象者によって手段を検討している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		利用者のプライバシーもあるため、難しい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	4	スタッフは研修、訓練を行っている。	玄関に掲示はしているが周知は不十分である。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年間計画して行い、防災意識を高めている。BCPに関する研修も年間研修に組み込まれている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		与薬依頼書を作成し必要に応じて、提出いただいている。情報共有できている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	医師の指示書や保護者の情報に基づき、対応している。他児と適度な距離をとっての食事や食後の手洗いの徹底に努めている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		設備の安全点検も定期的の実施し、子どもへも安全指導している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	3		事業所での安全計画に基づく取り組みの内容等を通所開始時の機会において説明を行い安全性についても周知しなければならない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		事例を事業所全体で共有し、要因を分析し必要な対策を講じ、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		社内研修に加え、外部講師にも講義を依頼している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	身体拘束をおこなうことはないが、事前に保護者に説明を行っている。	現時点で計画書に記載している該当児童はいないが、身体拘束をおこなわなければならない状況については事前に把握しておく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいスイッチ神埼第二（児発）		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 16日		～ 令和6年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 16日		～ 令和6年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の配置数・専門職の配置。(保育士、作業療法士、心理担当職員)	子どもたちが安心して過ごせるよう、十分な職員を配置している。また、保育士・作業療法士・心理担当職員など、専門職が連携し成長を多方面からサポートできる体制を整えている。専門分野の視点で意見を出し合い支援をおこなっている。	今後も多職種で連携しよりよい支援に取り組んでいく。
2	テラスがあり、夏季には大きなプールを設置し、毎日水遊びができる。	感覚統合を促す目的に応じた水遊びのバリエーションを工夫している。水の感触や温度変化が心地よく、感覚過敏や鈍麻がある子どもたちにとって自己調整の助けになっている。	流水の活用やろ過機能装置の使用による水質管理を徹底する。
3	十分なスペースの確保	児童が安心して活動できる環境を提供するため十分な広さを確保。集団活動や個別支援の場面において余裕を持った使い方が可能となっている。児童の安全確保や快適な利用環境を維持するため、室内レイアウトの工夫や定期的な設備点検を実施している。	バリアフリーをすぐに整備することは難しいが、マット、シートの設置対策は検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や保護者同士の交流の機会の提供。	連絡帳やアプリの活用、送迎時の声掛けは行っているものの、保護者向けの勉強会や交流の場は提供できていない。交流を希望しない保護者もいる。	どういった繋がりを必要としているのか把握し、必要という声が多ければ立案していく。 行政や他の支援機関など必要に応じて適切な支援機関を紹介し、家庭全体のサポートにつなげていく。
2	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル防犯マニュアル、感染症対策マニュアルを策定し、職員に対しての研修、発生を想定した訓練を行っていることを周知できていない。	玄関に掲示していることや伝え方が弱く、正しく理解されていない。	マニュアルを掲示していることや訓練の様子をお便りやSNSを使って積極的に発信していく。
3			